http://collective-music.com/

PRESS COLLECTIVE

— SUMMER 2017 —

collective vol.42
17th June 2017
@event space 雲州堂

edit: tawaki text: tawaki, yu, mackiart, 楠田行展 design: yukiokimura.com

自著『貧困と地域』のサンプリングソース

tawaki

僕は人を取材し、文章を書く仕事を生業にしているのですが、今年の2月に『貧困と地域 あいりん地区から見る高齢化と孤立死』という新書を出版しました。collectiveと同じく10数年に及ぶ継続的活動の産物です。

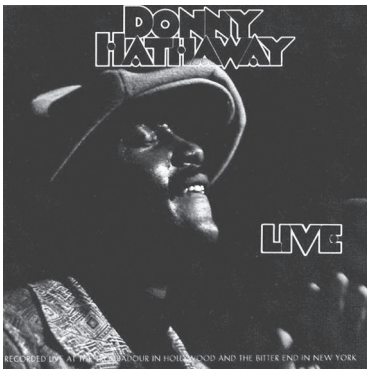
本書はタイトルが示す通り、大阪市西成区のあいりん地区を主題にしています。「釜ヶ崎」という通称でも知られるこの町は、戦前から安宿街が立ち並ぶエリアでしたが、敗戦後にその性格がさらに強まり、高度経済成長期には日雇労働力の供給拠点として、全国から単身の男たちを寄せ集める町になりました。

こうした特殊な環境があることで、あいりん地区は全国の失業者の受け皿にもなりました。ただし、日雇いという不安定な雇用形態のため、仕事にあぶれるリスクは高く、不安や不満が募りやすい地域特性がありました。高度経済成長期からバブル期にかけて、20回以上の暴動が発生したことから、当時を知る中高年の人々には悪名高き場所として記憶されるようにもなっていったのです。

「日雇労働者の町」「ホームレスの町」。このようにイメージされるあいりん地区に興味を持った背景には中高生の頃から愛聴していたブラックミュージックの影響があります。「困難な環境の中で何とか暮らしていく」。これはブラックミュージックの長年にわたるテーマです。特にインスピレーションの源泉となったのが1970年代のソウルです。

『貧困と地域』は数多くの参考文献をもとに執筆しました。過去の作品を下敷きにしながら、それをパッチワークのように組み合わせて、現代的なものにアップデートする僕の本作りはヒップホップとの類似性がかなりあると自認しています。

僕が大好きな1990年代のヒップホップのトラックは1970年代のブラックミュージックからのサンプリングを重視していましたが、拙著も同種のものに強く影響を受けています。以下に代表的な3枚を紹介します。



Donny Hathaway / Live (1972)

全ソウルファンが心酔するダニー・ハサウェイのライブ盤。スタジオ盤よりグルーヴィーな作り。カバー曲も充実。代表曲「Little Ghetto Boy」で繰り返されるフレーズ「Everything Has Got To Get Better」は涙なしには聴けません。

Gil Scott-Heron / Winter In America (1974)

クラブでも聴く機会が多い名曲「The Bottle」は、本盤に収録されています。この曲はアルコールに依存する人々の悲哀を歌い上げています。歌詞に描かれた厳しい現実は、拙著との類似性が強いです。他の曲も素晴らしいので、ぜひアルバムを通して聴いていただきたい1枚。

Curtis Mayfield / There's No Place Like America Today (1975)

ジャケットのインパクトが強烈な1枚。配給に並ぶ姿は否応なく、あいりん地区の炊き出し風景を彷彿とさせます。絶望的な剥奪感を歌い上げた「Hard Times」と誠実なラブソング「So In Love」が1枚に収められているところにこの時代のソウルの良心を感じます。

拙著のタイトルだけを見たら堅苦しく思われるかもしれませんが、「サンプリングソース」を示すことで少しは身近に感じていただけたのではないでしょうか。よろしければチェックしてみてください。

この数年、あいりん地区は大きく変化してきています。かつて興味本位で足を踏み入れる者はほとんどいませんでしたが、collectiveに遊びに来るような音楽好きの連中が、「本物らしさ」を求めてこの町のホルモン屋台などに遊びに来るようになっていたりします。

新しい客が増えることで町は確実に姿を変えていきます。多くの人が興味をもち始めると地価が上昇し、貧困層が暮らせなくなる可能性も高くなります。こうした現象はジェントリフィケーションと呼ばれますが、あいりん地区ではそれが進みつつあるのです。都市は生き物ですから、変化は避けられない。でも「守るべきものは何か」という基本的価値の共有は常に検討する必要があると考えています。それが僕の聴いてきた音楽の教えでもあります。

http://tatsuyashirahase.com/

新パーティー Unity のご案内

yu

我らが collective も13周年を迎え、改めて時の流れは早いものだと痛感する。と同時にこれだけ多くの人と繋がることができたのも、この場所で過ごしてきた時の流れだと思っている。

点在する音楽好きが、何かのきっかけで他者と線を結び、友となり、共鳴し、動き出すとそれが弧を描き円となる。その円の描き方の一つをパーティーと捉えている。

円を描く場合、そこにまた新たな他者が円の中に入ってくる場合もあるし、円の外側でさらに線として結びつき、別の円を描き始める場合もあるだろう。

円が描かれるとき、つながった点の両端のうちのどちらかが支点となることもあるだろうし、同時に回転し、円を描く場合もあるだろう。そこに制約はなく、どちらが素晴らしいということもないこと。その価値判断については結果オーライである。

円を描くときのパワーこそがパーティーの力であって、円が渦を起こし、それが大きければ、それだけ円の外の人を吸い込んでいく。そうした長年のパーティー遊びの中で、広域の Unity（結びつき）が昨今の楽しさとなっている。Unity から Community（共同体）へと発展していく感覚が、collective を通じて味わえるようになってきたことはとても喜ばしい。

近く collective とは別に新たなパーティーを計画しているので、ここに遊びに来ていただいている方に是非足を運んでもらいたい。パーティー名は前述の Unity。各地に点在する実力派 DJ、地理的な事情や世代の違いにより交わらなかった人たちと接点をもって面白い円を描いてみたいと思い、衝動で声掛けさせていただいた次第。快く引き受けてくれたメンバーに感謝。

7月22日（土）に Compufunk Records で 17 時から深夜まで。料金は1500円（1ドリンク付き）。DJは SAEKO、YAKKIN、（harmony）、TAKE（Vibes）、YUKKO（HOUSE BAR MUSE）、YU（collective / AMiL2AMiL）。Food はヴァンパラ。スペシャルゲスト DJは、Motomitsu（Soiree Records International / Cracki/Paris）。

Motomitsu 氏は Soiree などのレーベルからハウスの楽曲をリリースするアーティスト。在住先のパリでは、人気 DJチーム Cracki に所属。絵本作家としても作品を数々リリースしている。必ずいいパーティーになるはず！と思っているので、是非とも皆さまの力をお借りしたい。

http://www.compufunk.com/

Column

献立作りサイト〝おいしい健康〟のススメ

mackiart

高校生の時から〝食〟に対しての興味が半端ない私。このコラムでも度々〝食〟のことを取り上げているのでご承知の方もいらっしゃるかと思います。しかし、今回のテーマは同じ〝食〟でも少し違った切り口から。今後の皆さんにも大いに役立つであろう〝おいしい健康〟という献立サイトについてご紹介させてください。

このサイト、ただの献立作りサイトではないのです。あのクックパッドが高血圧、糖尿病などの生活習慣病や美容と健康に気遣う方に向けて特化して作った〝管理栄養士監修〟のヘルシー料理専門のサイトなんです。

特に一押しなのが会員登録。身長・体重を入力してレシピを使用する症状や目的（ダイエット、高血圧、肌荒れ等）を選ぶと、目標とすべき一食の栄養目安を教えてくれる上に自分に適したレシピが選出されるのです。まさに自分専用にカスタマイズされたレシピサイトになるんです。

しかも、それぞれのレシピの栄養素や塩分量、カロリーなど細かく数値化されたものが表になって現れるので、どんな栄養素バランスのレシピかが一目瞭然。

それだけにとどまらず、主菜、副菜、ご飯、汁物、デザートとレシピがカテゴリー分けされており、各カテゴリーからひとつずつ選んで組み合わせることで、一食分の献立も作れてしまいます。毎日の献立を考える手間を省いてくれるありがたい機能なのです。

献立用レシピをひとつずつ選ぶ際に、その時点で足りない栄養素を含むレシピが自動的に検索・表示される機能もあります。〝おいしい健康〟の推奨レシピを選ぶだけで、バランスの取れた一食分の献立が作れてしまう優れもの。

あと、嬉しいのは分量も正確にグラム数で書かれていることと、一人前から材料が表示できるので、作り過ぎ防止にもなります。

アレルギー表示が追加されれば文句無しなのですが、これはニーズも多いと思うので時間の問題かなと。

なんといっても掲載されているレシピが美味しいので、時間があると、ついつい献立作りをしてしまうくらいハマっています（笑）。

〝おいしい健康〟は、いつでも誰でもすぐ始められるので、気になる方は是非チェックしてみてください。特に健康診断の数値が気になる男性陣の皆様は必見です。現在、闘病中の方やご両親、おじいちゃん、おばあちゃんなど、身近な大切な方にも是非おすすめします！

https://oishi-kenko.com

Music Review

和モノシンセ・ディスコの不気味な輝き

楠田行展

郷ひろみ／追憶の嵐（CBS ソニー 1979）

郷ひろみの「追憶の嵐」は僕にとって欧州のシンセ・ディスコと和モノをつなぐ曲です。1979年発売のシングル「ナイヨ・ナイヨ・ナイト」のB面で作・編曲は筒美京平。ですが、いわゆる京平ディスコとは一味違い、ポップさは皆無。プログレッシブなシンセに郷ひろみの歌唱が絡む不気味な空間支配力を持っています。私見ですが仏産ディスコバンド、スペースに近いと感じます。

〝アチチ〟が災いし、格好悪いと思われがちな郷ひろみですがそんなことアリマへ～ン（オマリー）。70年代末という時の狭間が生んだ容易ならざる輝きを求める人にお勧めです。ハードオフで50～100円、ヤフオクで200円、中古レコ屋でも300円で入手可。LP『アポロンの恋人』にも収録されています。